

# かほく市議会 総務建設常任委員会 視察報告

## 【研修日程】

令和5年7月24日（月）～26日（水）

## 【視察研修先及び内容】

- 宮崎県宮崎市 : 下水道処理施設における消化ガスによる発電事業について
- 宮崎県都城市 : ふるさと納税および6次産業推進事業の取り組みについて  
(現地視察)
  - 宮崎県小林市 : 木質バイオマスの現状と展望について
  - 宮崎県都城市 : 営農型太陽光発電について

## 【参加者】

総務建設常任委員長	野田	稔彦
副委員長	池田	義治
委員	寺内	照雄
	竹内	幹雄
	丸井	一範
	塚本	佐和子
	中川	康弘
随行	米谷	淳

---

## 下水道処理施設における消化ガスによる発電事業について

みやざき  
(宮崎県宮崎市)

宮崎市は、宮崎県の中央南部に位置し、農業が盛んで、キュウリは産出額全国1位で、ピーマン、大根などの野菜、マンゴーや日向夏などの果樹、宮崎牛などの産地でもあり、プロ野球やJリーグのキャンプ地としても有名で、青島をはじめとする観光資源も豊富な都市であります。

また、面積は約 644 平方キロメートル、人口は約 40 万 2 千人で、九州・沖縄地方では、6 番目に人口が多く、中核市として指定されています。

宮崎市では、バイオマス資源である消化ガスを事業者売却し、事業者が発電を行うことで、再生可能エネルギーの有効活用を図るとともに、消化ガス売却による収益と既設の発電機の更新に伴う設備投資および維持管理費のコスト削減を図るため、消化ガス売却事業に取り組んでいました。

導入の経緯については、平成 6 年に導入した消化ガス発電機の老朽化による更新の際、課題となる更新および維持管理費用の負担軽減や消化ガス未利用分の有効活用について検討し、事業者が固定価格買取制度（F I T）を活用した消化ガス発電を行う事業を採用したとのことであります。

自治体による発電施設が不要であるため、更新および維持管理費用が不要でコスト削減効果が大きい、また、消化ガスについても施設で使用しきれない未利用分をすべて発電事業者売却するため消化ガスを無駄なく活用でき、消化ガスの売却料金や施設を設置する土地の使用料、固定資産税による収入増のメリットもあり、試算では、20 年間で約 6 億円（約 3 千万円/年）の費用対効果が見込んでいるとのことであった。

また、再生可能エネルギーの有効活用をさらに推進するため、水道および下水道施設において、その他の再生可能エネルギーの導入可能性の検討を行っているとのことであります。

P P P（官民連携）事業により、コストや事務負担の軽減や公共施設を有効活用し、再生可能エネルギーを有効活用する取り組みは、ゼロカーボンシティを目指す本市においても有効な取り組みであり、かほく市モデルとしてどう取り組むべきか、今後検討すべき研修内容でありました。



## 6次産業推進事業の取り組みについて

### (宮崎県都城市)

都城市は、宮崎県の南西部に位置し、宮崎と鹿児島の間にある主要都市で、面積は約653平方キロメートル、人口は約16万4千人であります。

畜産業や焼酎の生産などが盛んで、肉用牛と豚の産出額が全国一であり、また、ふるさと納税の受入額において、9年連続でトップ10に入り、直近8年間で4回、日本一になっている都市であります。

都城市では、ふるさと納税と6次産業化の取り組みについて、ふるさと産業推進局という専門部局が所管しており、農林水産物の加工だけでなく、消費者への直接販売や食品産業等への業務用取引などの新たな取り組みについても対象となっており、物産セールス強化事業として、首都圏百貨店を含む店舗等への営業活動、営業力スキルアップ事業などの取り組みを行っていることが特徴であります。

平成26年度から取り組まれている6次産業化実施計画では、加工・製造を推進する個別事業者への補助金交付だけでなく、市内外へ情報発信などを行う周知・啓発の取り組みや展示商談会などへの出店支援について、自治体職員が積極的に取り組んでおり、商品力と販売力の強化を継続して行うことで、大都市圏でも売れる商品開発につながり、都城市としての地域力の強化につながっているとのことでありました。

また、ふるさと納税については、コンセプトを「肉と焼酎」を柱にして、都城市が「日本一の肉と焼酎のふるさと」であることを知ってもらうため、多数のポータルサイトでの紹介に加え、大手広告代理店によるWEB広告や新聞広告など、積極的な対外PRを実施したとのことで、ふるさと納税受入額全国1位という実績と広告宣伝力を活かした情報発信力は全国トップクラスであり、ふるさと納税受入額のさらなる増加につながっていました。

いずれにしても、よい商品の製造や加工だけでなく、その商品の営業活動や販路拡大にも、自治体職員が積極的に関わり、商品をPRして知名度を高めることで、地域力全体でのブランド力向上を実現していました。

かほく市認証ブランドについても、商品のブラッシュアップと効果的な情報発信により、地域ブランド力を向上し、ふるさと納税受入額のさらなる増加につながると感じる視察研

修でありました。



# イチオシ!

みやこのじょう

## 都城の6次化商品!!

農林畜産業 1 × 加工・製造 2 × 流通・販売 3 = 6 次産業化

～都城の農林畜産業者が、「6次産業化」の取組によって自ら作った商品＝「6次化」商品を取り扱っています！～

「6次産業化」とは、1次産業（農林畜産業）が、2次産業（加工・製造業）や3次産業（流通・販売・サービス業）と連携・融合し、高付加価値の新商品や新サービスを生み出す取組のことです。

都城市では、農林畜産業者による「6次産業化」の取組が盛んに行なわれ、たくさんの「6次化商品」が誕生しています。

安心安全な都城の農林畜産物に、生産者の「情熱」を注ぎ込んで作られた「逸品」をぜひお買い求めください!!

新 城

幸せ上々、みやこのじょう

はばだけ都城六次産業化推進協議会  
宮崎県都城町6-21 都城市役所5F TEL 0998-23-2192



新 城

令和2年度ふるさと納税受入額 日本一<sup>※4</sup>  
日本一の肉<sup>※1</sup>と焼酎<sup>※2</sup>のふるさと 都城市

令和4年度、ふるさと納税受入額日本一<sup>※4</sup>に選ばれた都城市の特産品をお選びください。

令和3年度ふるさと納税受入額 全国1位<sup>※4</sup>  
ふるさと納税受入額

令和3年度ふるさと納税受入額 3年連続受賞!<sup>※5</sup>  
ふるさと納税受入額

令和4年度ふるさと納税受入額 全国1位<sup>※4</sup>  
ふるさと納税受入額



### 【現地視察】木質バイオマス発電施設（宮崎県小林市内）

木質バイオマス発電は、再生可能エネルギーを活用するものであり、天気などに左右される太陽光発電や風力発電とは異なり、燃料さえあれば安定的に発電することができる。また、二酸化炭素を増加させずにエネルギーを作り出すことができるクリーンな発電方法であるため、カーボンニュートラルの推進にもつながるものであります。

メリットとしては、輸入資源に頼ることなく国産木材を燃料とすることで、林業の再興や山林の再生、地方の活性化といった効果が期待できるほか、新たなビジネスや雇用の創出につながるなどが挙げられます。

一方、課題としては設備や燃料の調達にコストがかかることや、人手・資源不足により発電施設の監視ができないこと、木材資源の取り合いが懸念されることなどが挙げられます。

視察先の施設では、木材資源不足の対策として、空き家の解体時にできる木材なども活用していました。



### 【現地視察】営農型太陽光発電（宮崎県都城市内）

営農型太陽光発電は、太陽光パネルを使って日射量を調節し、太陽光を農業生産と発電とで共有する取り組みであり、作物の販売収入に加え、売電による収入や発電電力の自家利用により、農業者の収入拡大による農業経営のさらなる規模拡大や6次産業化の推進が期待できるものであります。

作物の生育に適した日射量が作物の種類によって異なるため、導入を検討する際には、何を生産するか、また、生産量について太陽光パネルせずに生産する場合の8割以上なければならないため、継続して生産量を確保する技術が必要であるとのことでした。

導入によるメリットが大きく、効果的な取り組みであるが、事前に慎重な検討が必要であるため、他の事例などについても調査すべきであると感じました。



上記2施設の事例は、ゼロカーボンシティを目指す本市にとって有効な取り組みであり、導入について、前向きに検討していくべきであると感じました。